



# やまゆり

学校だより

令和6年1月23日  
77号  
学校長 杉本賢二

校訓 「和の心」  
学校教育目標 「社会に貢献しながら自立する生徒の育成」 一気づき・考え・実行するー  
校内研究重点 「個別最適な学びと協働的な学びで、主体的に学習する生徒を育成する」

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」

**祝！ 「3年生が1名、志望校に合格しました」**

3年生1名が、昨日1月22日(月)に高校入学試験を受け、本日入学許可の内定をいただきました。小学校から9年間の学習や部活動での努力と実績、人間としての成長を認められ希望高校への進学が決定したことを喜びたいと思います。おめでとうございます。

今後も、進学先でのさらなる活躍のために3月まで努力を継続して下さい。

公立高校前期試験に向けては、1月19日(金)に天野先生・三浦先生がそれぞれ各校の前期募集の出願をしました。冬休みから特色適性検査や面接練習に取り組んでいます。2月1日(木)に前期募集検査が実施されます。検査までもう少しですので体調に気を付け、万全の体制で臨みたいと思います。その後、2月9日(金)が入学許可予定者発表です。

公立高校の後期試験については、後期募集出願が2月20日(火)～22日(木)で、後期募集検査は3月5日(火)、入学許可予定者発表は3月14日(木)です。※卒業式は3月11日(月)

## 昨年度の学力試験問題の傾向

### ① 出題方針

実社会における課題解決能力の育成につながるよう、社会の動きや身近な現象との関連付けをしている。

### ② 県教委は平均点を各教科、「50点から60点」に設定している

山梨県の各教科の平均点が50点で想定されているのなら、受験者の半数が解けない問題が50%あることを明確に知っておくこと。

### ③ 問題作成の大きな特徴は、「複数資料」と「その比較」から問題を作成していることが大きな特徴。※教科書の問題は、複数教材提示の設定になっていないことが多い。

### ④ 文章量が多く、ハイスピードで解かないとならない。しかも、5割は難しい問題。

学校教育重点目標 「確かな学力の育成」

## 国語を例に「受験勉強」について考えてみよう

東京大学に入学した生徒が、「入学後に東大に入って一番良かったことは何か？」と質問されたとき、一番多い答えは何だと思いますか？

実は、「自分は、やればできる」ということが実感できたこと。だそうです。

勉強したくない・何のために勉強するのかわからない・別に大事なことがある・結果を出さなければならぬなど精神的にも実力的にも「困難」となる壁は高くそびえています。しかし、自分の心をコントロールし、生活に気をつけ、やるべきことを根気良く・我慢強く取り組み、簡単に諦めなかった点が自信につながっていくのだと思います。

志望校や目標に向かって、最後の一秒まで諦めずに根気よく学習していく力が、社会で通用する将来の自分を創っていく力に必ず通じると思います。

日本中の全ての中学3年生も同じ状況です。自分なりに考え、「志を立てましょう！」

学習するということ。それは「真実を見抜く」力を育成すること。生きるためには、学習できる力が必要です。

### ① (受験)勉強で一番大事な事は、「準備」(段取り八分)

公立入試は、頭の上さを見るものではなく、どれだけ準備したかを見るもの。

### ② 「やらなければならないことができる力」を育成する

- 1) やらなければならないことは誰にもある。
- 2) 「受験日までに取りたい点を取る」とは、結果を出すこと。それは、「信用」でもある。
- 3) 仕事の「質」。良い取り組み、そして結果を出せる。これを「信頼」という。

### ③ 倒すべきは人ではなく点数である 合格最低点と戦うこと

人との競争には気が引ける。勉強していないふり。これは間違い。受験は団体戦。そのために、お互いに励まし合い、協力しましょう。

### ④ 自分で計画して、自分で修正しながら結果を出せる力こそ、社会で通用する力として重要

- 1) 自分の実力を知る 検査問題を分析し客観的に知る。受験日から逆算し、計画を立てて準備し、自分の願いを実現しましょう。  
「勉強することができない」ことが今後の人生にも影響します。
- 2) 相手を知る 何が出題されるのか知らなければ、勉強しても点は取れない。過去問題やテスト範囲等を分析しましょう。  
「何を、どのように学習するのか。」これを創意工夫という。
- 3) 学習の仕方 ①計画(P)②実行(D)③チェック(C)④再度実行(A)  
※本当に実力のある人は、③→④→①→②の順で実行できます。

学ぶ事は生きること  
真実を見抜ける人間に

国語とは、日本語のことではない。日本語で書かれた文章のこと。漢文古文も国語。

映像は創られた「イメージ」を一方向的に送りつける。しかし、活字は読者がイメージを作り、それを理解するという作業が必要。それは、主体的で能動的な行為であるばかりか、まさに「考える」ということ。「読む」ことは、『考える』ことである。そして、「考える事」は、「生きる事」である。

国語の試験とは、日本語で書かれた文章の内容を正確に理解したかどうかを試すもの。国語の問題を解く力は、センスではなく、論理。論理とは「筋道」。筋道は、考え方の整合性であり、訓練すればできる。つまり、筋道を立てた考え方ができれば、基本は解けるということ。

## 基本的ルール その①

次の文章を読んで、後の問題に答えよ。  
本文に「何が」書いてあるかどうか。あるいは、本文に「どう」書いてあるか。それを問われているときに、「どう思うか」という自分の考えで答えると間違ふ。

答えは一つ。あなたの「考え」を答えれば人の数だけ答えが出る。だから、×  
答えは、文中の言葉を根拠にしなから、「一つ」。これが原則。  
逆に言えば、答えを一つにするには、「根拠」が必要。そして全ての根拠は文中にある。

## 説明的文章・論説文 その②

どんな感覚の人にも自分の考えを理解してもらうには、筋道を立てて説明することが必要。筋道を立てて説明することを『論理』という。

論理とは、筋道であり、同じことの繰り返し。

$2X + 2 = 6$     どの式もXは2であることを表している  
 $2X = 4$     同じことの繰り返し  
 $X = 2$     論理によって分かりやすくした。論理とは分かりやすさでもある。  
説明的文章・論説文の文章の中では、

筆者の伝えたいこと＝具体例	は同じことの繰り返し
筆者の伝えたいこと＝体験・エピソード	も同じことの繰り返し
筆者の伝えたいこと＝誰かの文章の引用	も同じことの繰り返し
筆者の伝えたいこと＝比 喩	も同じことの繰り返し
筆者の伝えたいこと＝具体例＝体験・エピソード＝引用＝比喩	も同じことの繰り返し

筆者の意見は形を変えて繰り返す。つまり、理解できるところで理解すべき。

最後に、

文部科学省 小学校の英語の必修化 その趣旨を以下に示します。

「音声を中心として外国語に慣れ親しませる活動を通じて、言語や文化について体験的に理解を深めるとともに、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成し、コミュニケーション能力の素地を養うことを目標として様々な活動を行います。」

活動を通じて・・・素地を養う。 (養う責任)  
活動を通じて・・・素地を養うことを目標とする。 (目標である)  
活動を通じて・・・素地を養うことを目標として様々な(活動を行います。)

活動を通じて・・・活動を行います。 とは・・・。

学ぶということは、真実を見抜くということ。(受験)勉強には、意味があります。

※高校への合格は、入試の点数だけでなく、調査書の3年間の成績が5割を占めています。

# 「個別最適な学び」の充実

今回は令和の日本型学校教育の「個別最適な学び」について取り組みを提案する。

目的は、一人一人の児童・生徒の長所や可能性を引き出すための学力保障と考えている。本校では、安定と活性化を両立した学校を基盤に「自律した学習者の育成」の観点から、認知能力と非認知能力の育成のためにキャリア教育も活用している。

教職員の生徒への個別の配慮として、病気や障害・学級適応感・学力等、指導の参考となる各種マニュアルを一元化した座席表を活用している。個別支援が必要な生徒のデータや対応を視覚化して教職員で共有し、組織的に指導している。学級生活に関わる標準化されたアンケート調査の結果も示し、生徒の学級適応感のニーズに応じた2次の、3次の援助を展開している。学力についても、教科・単元ごとに援助レベルを3段階で記し、生徒の援助ニーズや実力に応じた指導で、学習目標を達成する環境づくりを行っている。

## 次世代リーダーを育てる

36

杉本 賢二 山梨・道志村立道志中学校校長

## 自立した学習者へ 3レベルで学力援助、非認知能力も育成

「自律した学習者の育成」では、非認知能力に着目している。心理的安着性、自己肯定感・他者信頼・課題対応能力・知的的好奇心は、生きる力にまつながる能力として特に重視している。また、キャリア教育の基礎的・汎用的能力も活用している。

具体的には、まず本校独自の学習キャリアパスポートで、各生徒が過去の同系列の単元の学習目標の振り返りから自己理解を深める。次に、自分の適性を生かした学習計画を立て、見通しを持つ。また、「課題設定」の選択や工夫で学習意欲の向上を図る。そして、IC「I」を活用し、一人一人が根拠を用いて自分の考えを形成する。目標達成のために、自己調整や粘り強さを発揮し、協働学習も適宜活用する。学習過程や終末に、学習目標に拘する振り返りや評価を生かし、学びの楽しさや自己効力感等を実感できるように努力している。

認知能力と非認知能力は密接な関係があるといわれている。今後は、教研式認知能力検査（NI-NO）を活用し、自律した学びをエビデンスにもつてさらに充実したい。

「令和のやまなし教育活動モデル事業」の協力校である本校では、日々の研究の成果を県内外に発信することも求められています。今回も本校の学習方法に関する実践を、「日本教育新聞」（令和6年1月22日号）に掲載して頂きました。実践のレベルを、全国紙に認めて頂くのは大変です。生徒・教職員・行政・保護者等の協力による小さな学校の、大きな成果です。